

鹿屋市立鹿屋看護専門学校学校関係者評価

令和5年6月12日(月)

I 学校紹介

学 科：看護学科(3年課程全日制)

1 学年定員：30 人

在籍数：88 人(令和5年4月1日現在)

卒業後の資格および進路：資格一専門士称号授与、看護師免許

進路一看護師就職、助産師・保健師学校進学や大学編入

主たる実習施設：(1)鹿児島県立県民健康プラザ 鹿屋医療センター

(2)社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

カリキュラム：シラバス参照

国家試験合格率：100% (令和4年度第112回看護師国家試験)

(平成23年度～3年課程卒業生全員合格)

II 学校関係者評価

第2回(令和4年度)結果報告

令和5年3月20日(月)に学外学校関係者委員(看護教育関係代表、臨床看護代表、地域住民代表)を招聘し、学校職員7人と共に10名参加のもと学校関係者評価委員会を開催した。

1 方法

学校側が評価した自己点検・自己評価の結果を報告し、是非を問うと共に、課題と考えられる前年より平均点が低下した領域や例年平均点が低い領域に焦点をあてて検討した。

2 自己点検・自己評価結果(レーダーチャート・一覧表参照)

自己点検・自己評価実施者：教員10人(令和5年3月)

評価内容：9領域26中項目175小項目

I 教育理念・教育目的、II 教育目標、III 教育課程、IV 教授・学習・評価過程
V 経営・管理過程、VI 入学、VII 卒業・就職・進学、VIII 地域社会・国際交流
IX 研究

評価点：0～3点

結果 総合平均点：2.4点(ほぼ適切)

適切領域：I 教育理念・教育目的、II 教育目標、III 教育課程、IV 教授・学習・
評価過程、V 経営・管理過程、VI 入学、VII 卒業・就職・進学

平均以下領域：VII 卒業・就職・進学、VIII 地域社会・国際交流、IX 研究

やや不適切領域(再掲)：IX 研究

3 第1回学校関係者評価委員会結果

今回は学校関係者評価委員会2回目の開催であった。本校は、2年課程から3年課程移行後の平成20年度以来、自己点検・自己評価に基づく学校運営の課題の抽出と解決に取り組んでおり、その蓄積をもとにし、令和3年度初回開催に続く第2回の学外委員の方々からの忌憚のない質疑や意見は一段と示唆に富む非常に有益なものであった。

9領域の各評価は、3点満点中、「研究」以外は2点以上の総合平均2.4点であった。総合平均点が令和3年度2.56から約0.2点下降したが、学外委員からは、カリキュラム改正でよく見直しがなされ精選されてきた結果であり、学校運営状況は「ほぼ良好」との評価を頂いた。

前年度課題であった項目のうち、研究(学生・教員)の工夫を実施し、研究は1.67と2点以下ではあるが、本項目のみが前年度より微上昇した。学業不振やメンタル問題を抱える学生への個別指導や学生ピアサポート、カウンセリング等による支援により、1名の進路変更理由での退学者以外は、新旧カリキュラムの推進のもと全学生が単位修得し進級や卒業を果たし、国家試験全員合格も達成した。地域の病院就職の推進のための保護者会の工夫などの助言を活かし、令和4年度卒業生の市内就職率は52%と過去最高を達したが、推薦入学者の県外就職や、助産師学校進学が不可であったこと等の課題が残った。

また、防犯上の安全で安心して学べる教育環境整備の課題。B日程入試受験者の大幅減少に伴う4年ぶりの二次試験実施で漸く定員確保できたが、今後本校の魅力発信も大きな課題と考える。

令和4年度は、カリキュラム改正初の1年生を迎え、新・旧カリキュラム並走での学校運営に取り組んだ。COVID19感染症の影響をはじめ、目覚ましい社会の変化に対応する、地域に根差した看護基礎教育機関としての本校の課題がより明確化されたことをもとに、看護基礎教育の質の向上につながるよう、保護者や地域との連携のもとに、理解と協力が得られるよう取り組む必要があると考える。